

2014年 8月

慈恵曽根病院 小児科便り

『しつけと体罰と虐待の違いって何？』

夏休みが始まりました。子どもたちは、夏休みならではの遊びや企画を楽しみにしていることと思います。お母さんは、昼食の準備や遊びの付き合いで、いつもより少し負担が増えているかも……。

今回の小児科便りでは、「しつけ」と「体罰」と「虐待」の違いについて考えてみたいと思います。

1)しつけとは？

親は本来子どものすこやかな育ちを願っています。社会のルールを教える手段の一つが「しつけ」と呼ばれるものです。しかし、しつけが本来の目的をはずれ、体罰という子どもを傷つける行為に変化していないでしょうか？ 大きな声で怒鳴ったり、叩いたりしなければしつけにならないと思い込んでいませんか？ 子どもに大事なルールを伝えるには、どの方法が一番よいのか、まず落ち着いて考えてみませんか。

2)体罰とは？

体罰には6つの問題性があると考えられています。

- ①体罰は、しばしばそれをしている大人の感情のはけ口であることが多い。
- ②体罰は、子どもに恐怖感を与えることで子どもの言動をコントロールする方法である。
- ③体罰は、即効性があるので、それを使っていると、他のしつけの方法がわからなくなってしまう
- ④体罰は、しばしばエスカレートする。
- ⑤体罰は、それを見ているほかの子どもに深い心理的ダメージを与えている。
- ⑥体罰は、ときには取り返しのつかない事故を引き起こす。

*この内容は、独立行政法人福祉医療機構 社会福祉進行助成事業

子どもすこやかサポートネット (<http://www.kodomosukoyaka.net/>) から引用しています。

3) 虐待とは？

子どもの体や心に行う痛みを伴う行為は、虐待につながります。虐待の最も恐ろしいことは、世代を超えてつながっていくことです。子どもを虐待する親の多くは、同じような虐待を子どもの頃大人から受けています。そのとき受けた心の傷は、長い年月を経ても決して消えることはありません。また、体罰や虐待を通してしか子どもをしつけるすべを知らないため、いけないと思っても同じことをわが子に繰り返してしまうのです。そして、そのことを通して、子どもだけでなく、自分自身をも傷つけてしまいます。



4) 叩かない子育て

当院では、叩かない子育てを応援しています。どのように子どもにかかわれば、叩かずに健やかな親子関係を築いていけるのか、そして健やかな成長を見守ることができるのか、一緒に考えてみませんか？



慈恵曽根病院 小児科
有門 美穂子